

NO.163
2004.6.15



日本科学教育学会 (Japan Society for Science Education)
発行：木村捨雄 (国立教育政策研究所内)
〒153-8681 東京都目黒区下目黒6-5-22
TEL：(070)5541-6615 (専用PHS) / FAX：(03)3714-0986
e-mail：jimukyoku@jsse.jp
URL：http://www.jsse.jp

科学教育研究レター

目次

年 会	pp.2-9
第28回年会案内(第5次)	
理事会だより	pp.9-11
第204回理事会報告	
編集委員会だより	pp.11-12
支部会だより	p.12
東海支部総会報告	
研究会だより	pp.13-14
第5回研究会(5/15)開催報告	
平成16年度開催計画	
国際交流委員会だより	pp.15-16
広報委員会から	p.16



第28回年会のご案内（第5次）

年会企画委員会・年会実行委員会

今夏の年会は千葉大学で開催されます。会員の皆様はもちろん、周囲の方々をお誘いの上、奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

1. 年会テーマ 社会に生きる科学教育
2. 期 日 平成16年（2004年）8月6日（金）～8日（日）
3. 会 場 千葉大学西千葉キャンパス・教育学部・けやき会館
（〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33）
4. 交通機関 〔JR〕 JR総武線 西千葉駅下車 徒歩10分
〔京成電鉄〕 京成千葉線 みどり台駅下車 徒歩10分
5. 主 催 日本科学教育学会
後 援 千葉大学、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県高等学校教育研究会
理科部会、同 数学部会、千葉県教育研究会理科教育部会、同 数学教育部会、
ちばサイエンスの会、宇宙航空研究開発機構(JAXA)
6. 日 程（予定）

	8月6日（金）		8月7日（土）		8月8日（日）		
9:00	受付		受付		受付		
10:00	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	研究発表 学会企画課題研究		研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	科学教育 実践 セミナー
11:00			科学教育セミナー				
12:00	昼食・各種委員会		昼食・各種委員会		研究発表 自主企画 課題研究 一般研究 JAXA		
13:00	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	総 会				
14:00			国際学術交流特別スピーチ		理事会（新）		宇宙ステー ション 教育利用 ワーク ショップ
15:00	休憩		休憩・準備		理事会（旧）		
16:00	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	シンポジウム		理事会（旧）		
17:00			理事会（旧）		懇親会		
18:00	顧問 評議員 支部役員会	若手の会	懇親会				
19:00							
20:00							

理事会（旧）：8月6日（金）17時30分～18時、千葉大学 けやき会館

理事会（新）：8月8日（日）14時30分～15時30分、千葉大学 けやき会館

顧問・評議員・支部役員会：8月6日（金）18時～20時、千葉大学 けやき会館

総会：8月7日（土）13時30分～14時30分、千葉大学 けやき会館

国際学術交流特別スピーチ：8月7日（土）14時30分～15時、千葉大学 けやき会館

科学教育における日韓の学会間交流を開始する意義や、アジアの科学教育研究における今後の連携の可能性について、韓国の科学教育学会（KARSE）会長にお話しいただきます。

懇親会：8月7日（土）18時～20時、千葉大学 生協第1食堂

その他の委員会等を計画の場合は、年会実行委員会事務局までお知らせ下さい。

7. 内 容

次に示すものを企画しています。日程、概要、発表者等につきましては、詳細が決まり次第順次、年会専用ホームページ（HP）で案内させていただきます。

(1)シンポジウム

テーマ：“科学のための科学”から“社会のための科学”と科学教育・科学教育研究の新しい展開
司会：木村捨雄（名城大学）

登壇者：木村捨雄（名城大学）	問題の所在と問題提起
飯高 茂（学習院大学）	数学・数学教育の立場から
兵頭俊夫（東京大学）	物理学・物理教育の立場から
清水康敬（メディア教育開発センター）	情報学・情報教育の立場から
小川正賢（神戸大学）	科学教育の立場から
大高 泉（筑波大学）	理科教育の立場から

概要：“社会のための科学”の考え方は、1987年の“持続可能な開発”（国連の環境と開発に関する世界委員会）1992年の国連環境開発会議（地球サミット）を伏線にしながら、1999年6月ブダペストの国際科学会議ICSUとUNESCOとの共催による世界科学会議WCSで採択された、1)知識のための科学：進歩のための知識、2)平和のための科学、3)開発のための科学、4)社会における科学と社会のための科学の4主要項目を骨格とする49ヶ条に及び、科学と科学的知識の利用に関する世界宣言” - 行動のためのフレームワーク - の中で強く打ち出されてきた。また、日本学術会議も、“持続可能な社会への進化”に向けての科学の役割を規定する中で“社会のための科学”を提唱し、文部科学省もこの線で科学技術政策を推進する方向にある。既に、1992年の科学技術会議の「科学技術の総合基本政策」（基礎的・先端的な科学技術、人類共存のための科学技術、生活・社会の充実のための科学技術）“文化として根づく科学”（未来科学館）“安心と安全と平和の科学技術”（COEプロジェクト）も、サイエンスチャンネル（JST）もこの一環として考えられる。

これまで、“科学のための科学”を中心に編成実施されてきた科学教育、科学教育研究のあり方（科学の基盤、基礎であることの認識の上であるが）も、“社会のための科学”に対して無関心でいる訳にはいかない。この問題に対して、どう対処していったらいいか、多方面からの検討が必要で、このシンポジウムでその未来展望的な方向が見出されれば大きな前進になる。なお、現在、提案者のサブテーマは仮題であることをお断りしておきます。

(2)学会企画課題研究発表

学会として現在重要と考えるテーマについて、研究発表し討議するものであり、次の7件が用意されています。

科学教育の根本的な変革をめざして - 国際的動向を踏まえ、日本の特色が発出する科学教育の基盤の再構築を求めて -

オーガナイザー：下條隆嗣（東京学芸大学）・木村捨雄（名城大学）

概要：理科嫌いや低い科学リテラシーなど、将来の日本にとって大きな問題となる事態に対して、その解決に根本的に取り組むために、科学教育基盤の再構築を含む根本的な課題について見つめ直す時期に来たように思われる。学術会議の再編成や国際的動向も踏まえつつ、これらの課題を掘り下げ、解決の道をさぐり、科学教育の日本の特色を出すようにするための一助となるシンポジウム形式の課題研究としたい。日本学術会議や国際会議の動向、未来に生きる力、新しい生命科学教育、資質・能力の扱い、教科書開発、算数・数学と他教科の連携、科学と技術の統合化カリキュラムなどについて、教育課程の具体的な内容や、新しい視点による旧来の内容の取り扱いの変更など、教育課程や教育内容にできるだけ具体的に踏み込んだ提案を期待したい。

科学教育再構築に向けての提言（II）

オーガナイザー：角屋重樹（広島大学大学院）

概要：数学科や理科及び技術科などの3教科において、小学校教師や中学校教師などに対する実態調査からの指導内容の検討や教員養成カリキュラムなどをもとに、数学科や理科及び技術科のこれからの教育課程に関して具体的な提言を行うことを目的とする。

教科間・科目間のカリキュラム連携の可能性を探る

オーガナイザー：伊藤 卓（教科「理科」関連学会協議会）

概要：ここ四半世紀の科学技術の飛躍的な進歩により、人々の生活は格段に豊かになった。所謂飽食の時代の到来とともに、多くの若者の意識からハングリー精神が遠のき、知的好奇心を駆り立てる動機付けがともすれば欠落しかねない。論理的思考力の涵養が重要な使命のひとつである教科「理科」においてはこの問題はとりわけ深刻であり、身の回りの事象に関心を抱き、知的好奇心を駆り立てるための、抜本的な教科内容と授業方法の点検が必要である。この趣旨で、これまでの独立した「教科」・「科目」の内容を見直し、例えば理科と国語・数学・社会科等々の教科間、さらには物化生地の理科の科目どうしの間で連携し、再編することの功罪について議論を交わしたい。小・中・高・大いずれの教育段階についてでも、まずは様々な立場・視点からの問題提起が期待される。

学校・博物館・地域における関係性の構築 - 科学コミュニケーションの活性化 -

オーガナイザー：小川義和（国立科学博物館）

概要：学校、博物館等は、これまでそれぞれ異なるミッションを持ち、独自の方法・内容で教育活動を展開しながら、科学教育の一翼を担っている。本課題研究では、それぞれの立場で科学教育に取り組む実践者が、学校・博物館・地域の連携を共通のキーワードとしてその実践と成果について報告する。また、ここでは科学コミュニケーションを「学校・博物館・地域の連携を通じた科学との関係性の構築の過程」ととらえ、連携を維持していくためのマネジメント、連携における人の役割と人材育成、などについて考えていく。

高等科学教育に求められる資質とはとは何か - 初等中等理科教育と高等科学教育の乖離を考える -

オーガナイザー：鈴木 誠（北海道大学）

概要：高等科学教育は、今まで研究者やエンジニアの育成、一般市民の科学的素養の涵養といった2つの大きな役割を担ってきた。しかし、近年の大学生の学力低下や学ぶ意欲の喪失は、これらの役割を阻害する大きな要因となってきている。また、急速に変化する社会は、さらに多様な資質やスキルを具備した科学技術系の人材を求めてきている。大学はこれらの問題を解決するために、どのような取り組み(授業改善)をすべきなのだろうか。また、何を初等中等理科教育に求めるべきなのだろうか。本セッションでは、科学教育に必要な資質に焦点を当てながら、何が不足しているのか、それを伸ばすにはどのような手法が必要なのかについて、具体的な実践を基に議論しようというものである。

新世紀型理数科系教育の展開をめざして：ITを利用した先導的で実効性の高い教授・学習システムの研究

オーガナイザー：東原義訓（信州大学）

概要：文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」の「新世紀型理数科系教育の展開研究」では、「ITを利用した先進的で実効性の高い教授・学習システムの研究」などのテーマのもとに、精力的に研究が推進されている。本課題研究では、そこで取り組まれている研究の新たな視点やこれまでの成果などを紹介していただき、これからの理数科系教育のあり方について検討し、それを踏まえて日本科学教育学会の今後のあり方についても討論する。本学会会員以外の特定領域研究の研究者からの参加も期待されている。

新世紀型理数科系教育の展開をめざして：教育内容と学習の適時性及び論理的思考力・創造力育成に関する研究

オーガナイザー：瀬沼花子（国立教育政策研究所）

概要：文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」の「新世紀型理数科系教育の展開研究」ではA01からA05の5つの研究項目について、精力的に研究が推進されている。本課題研究においては、A01（教育内容と学習の適時性、7件）及びA02（論理的思考力・創造力育成、28件）の研究について、理科及び算数・数学に関する優れた研究の中からそれぞれ1件ずつ、研究の視点やこれまでの成果を紹介いただき、教育内容と学習の適時性及び論理的思考力・創造力育成について総合的に議論を深め、理数教育の現状や課題について検討していく。

(3) 科学教育セミナー

独創的・先端的な科学教育研究を牽引している研究者の講演をお願いしています。本年度は、次の

2件を予定しています。

理数長期追跡研究 - 縦断的研究で何がわかったか -

松原静郎 (国立教育政策研究所)

教師の実践的知識を基盤とする循環的な研究方法論

益子典文 (岐阜大学)

(4) 科学教育実践セミナー

地域で推進する科学教育：ちばサイエンスの会の活動を中心とした事例

オーガナイザー：鶴岡義彦 (千葉大学)・中川人司 (宇宙航空研究開発機構)

概要：科学教育は学校の理科教育だけで行われるのではない。地域の学校、科学館、大学、企業、市民団体などが連携すれば、青少年の理科教育はもちろん一般市民の科学的素養の向上も期待できる。今回は、千葉のユニークな団体NPO法人「ちばサイエンスの会」の活動を取り上げ、様々な立場からの発言を踏まえて、地域における科学教育活動推進のあり方を探る。

発表：・鷹野敏明 (千葉大学大学院自然科学研究科)・安田良平 (元東京大学生産技術研究所)・

高田裕行 (ジュニアサイエンティスト編集者)

「ちばサイエンスの会の活動とロケット発祥についての取り組み」

・深山輝夫 (ちばサイエンスの会ジュニアクラブ代表)・中川好美 (千葉市立新宿小学校)

「ちばサイエンスの会ジュニアクラブの活動」

・今井 功 (千葉市立緑町中学校、千葉大学大学院教育学研究科)・

古市直彦 (千葉市立緑町中学校)・前田 務 (千葉市立緑町中学校)

「中学校での理科教育とちばサイエンスの会」

・喜多伸介 (“星を見る会キャラバン”スタッフ)・多賀治恵 (千葉市立郷土博物館)

「千葉市立郷土博物館星を見る会キャラバン事業」とちばサイエンスの会」

(5) 自主企画課題研究発表

会員の個人ないしグループが重要と考え企画したテーマについて、研究発表し、討議します。次の14件の企画が予定されています。

数学的モデリングの教授・学習に関する研究と実践の動向 (1)

オーガナイザー：佐伯昭彦 (金沢工業高等専門学校)・池田敏和 (横浜国立大学)

数学的モデリングの教授・学習に関する研究と実践の動向 (2)

オーガナイザー：佐伯昭彦 (金沢工業高等専門学校)

海外の小中高一貫した技術科教育の動向

オーガナイザー：山崎貞登 (上越教育大学)・宮川秀俊 (愛知教育大学)

m-Learning：モバイル環境を利用した教育の可能性

オーガナイザー：加藤 浩 (メディア教育開発センター)

科学館における実験教室から「家庭環境」にせまる

オーガナイザー：佐伯 胖 (青山学院大学)

再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアを利用した科学教育の実践的展開 (2)

オーガナイザー：舟生日出男 (茨城大学)

小学生と製作活動

オーガナイザー：伏見陽児 (千葉大学)

ユビキタス社会における学習環境のデザイン

オーガナイザー：加納寛子 (愛知産業大学短期大学)

Japanese science education from the view point of Australian researchers

オーガナイザー：山下修一 (千葉大学)

科学の目で見る日常の疑問に関するデータベースの開発

オーガナイザー：稲場秀明 (千葉大学)

数学教育における教育協力経験のモデル化へのパースペクティブ (仮題)

オーガナイザー：磯田正美 (筑波大学)

諸外国の算数・数学教育

オーガナイザー 瀬沼花子（国立教育政策研究所）

日独の高校1年生が持つ『科学』の概念に対する比較調査研究

オーガナイザー：吉岡亮衛（国立教育政策研究所）

スーパーサイエンスハイスクールと新世紀型理数系教育

オーガナイザー：鳩貝太郎（国立教育政策研究所）

(6)一般研究発表

会員の個人やグループがそれぞれの関心に基づいて行う研究発表です。今回から、新しい15のセッション名の下で100件以上の研究発表・討議が行われると見込まれています。一件あたり発表15分・質疑応答5分の予定です。なお、本年度はポスター発表については予定していません。

(7)ワークショップ

現在、4件のワークショップが予定されています。

はじめてのデジタルポートフォリオ

企画：余田義彦（同志社女子大学）・山野井一夫（筑波女子大学）

概要：コンピュータを利用したポートフォリオは、デジタルポートフォリオとか電子ポートフォリオという言葉で呼ばれています。本ワークショップでは、日本の小中学校で行われているデジタルポートフォリオの授業実践を紹介します。また、コンピュータを使ってそれを実際に作成してみたり、自己評価や相互評価を行う活動などを通して、デジタルポートフォリオを取り入れた授業を体験していただきます。そして、デジタルポートフォリオの教育的価値や授業への様々な応用について、皆さんとともに考えたいと思っております。

デジタル・コンセプトマップ入門(2)：再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア

企画：稲垣成哲（神戸大学）・舟生日出男（茨城大学）・山口悦司（宮崎大学）・出口明子（神戸大学大学院）

概要：昨年に引き続き、再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア「あんどうくん」の概要とその最新版を紹介するとともに、その授業実践における利用のポイントについて話題提供します。最新版では、再生機能に「ブックマーク」機能を追加し、再生プロセスのマーキングを可能にしました。このことにより、コンセプトマップの作成プロセスのどこで考えが変わったのか、どこで迷ったのかなどについて学習者自身のモニタリング支援を強化しました。ワークショップでは、実際に「あんどうくん」を体験していただきながら、本ソフトの教育実践への利用可能性について考えてみたいと思います。

反復再生可能型描画システム Polka を使う科学的モデルの学習支援

企画：中山 迅（宮崎大学）・林 敏浩（佐賀大学）

概要：反復再生可能型描画システム Polka は、宮崎大学教育文化学部の中山迅と佐賀大学理工学部の中林敏浩が協同で開発している理科学習支援用の Windows ソフトです。理科では、児童・生徒に自然の仕組みについての考えを表現させるために線を使った絵を描かせることがあります。「描画法」と呼ばれるこの方法は、自然の仕組みをモデル的にとらえさせる学習において特に有効です。しかし、紙の上に描く場合は、児童・生徒の考えが変わった時には改めて描き直さなければなりません。そこで、このソフトウェアを使えば、描いたものを修正しながら新しい考えを表現することができます。しかも、描画のプロセスが記録されて、何度でも再生可能なので、自分の思考過程を振り返ったり、少し前の描画まで戻って描き直したりすることができます。このセミナーでは、Polka を実際に使っていたいただきながら、理科授業での利用についてみなさんといっしょに考えたいと思います。

ハンドヘルド・テクノロジーを活用した数学と物理の総合学習

企画：氏家亮子（金沢工業高等専門学校）・佐伯昭彦（金沢工業高等専門学校）・土田 理（鹿児島大学）ほか

概要：企画者らが開発した数学と物理との総合学習の教材を実際に体験し、その有効性について議論する。この教材では、物理現象のデータをハンドヘルド・テクノロジー（グラフ電卓、センサー、データ収集機）を活用して収集し、データを数学的・物理的に探究する。ワークショップでは、音のデー

タを収集しペットボトル楽器を作成する教材で以下のアクティビティを予定している。(1)ハンドヘルド・テクノロジーの紹介と操作練習、(2)活用事例の紹介、(3)実際の実演、(4)教材の配布。

(8)若手の会

開催日時と場所：8月6日(金)18:00～20:00 / 千葉大学・けやき会館1Fの食堂コルザ

参加対象：20代、30代の年会参加者(学会非会員の方も参加できます)

参加費：学会員1,000円 / 非会員1,500円

企画：編集委員会の編集委員2名をお招きして、学会誌論文の投稿・審査に関するレクチャーを実施する方向で準備を進めています。講師は、村山功委員(静岡大学)と、「若手の会」企画担当の森田裕介委員(長崎大学)を予定しています。また、若手研究者や若手実践者が互いに顔見知りになれば、親しくなれる機会を提供します。人のネットワークは、若い人たちがこれから所属を越えた協力体制に基づくプロジェクト型研究を推進して行こうとするときに、重要な力と財産になるからです。

(9)企業展示

企業による教材、教具、書籍などの展示・演示を予定しています。

(10)「第2回宇宙ステーション教育利用ワークショップ」のご案内(本学会後援事業)

宇宙航空研究開発機構(JAXA)主催、本学会と文部科学省とが後援する事業です。

趣旨・目的：日本は、国際宇宙ステーション計画に、実験モジュール「きぼう」(愛称)を開発・提供することを通して参加しています。「きぼう」の打上げは2006年頃の予定ですが、「きぼう」では、宇宙環境を利用した実験・研究、天体観測、地球観測、技術開発などが行われる予定です。更に教育利用などが提言されています。こうした動きを受け、昨年8月に、「きぼう教育利用ワークショップ」を開催し、教育関係者と意見交換を行いました。参加者からの継続希望も多く、今回第2回目のワークショップを開催することになりました。

内容： 基調講演

これまでのJAXA教育プログラムの紹介

国際宇宙ステーション教育利用の実践報告(教員・生徒ほか)

NASAにおける国際宇宙ステーション教育者ワークショップ報告

参加費：このワークショップのみに参加する場合は無料ですが、事前申込みが必要です。

詳細情報は6月末にホームページ(<http://www.jsup.or.jp>)に掲載する予定です。

問い合わせ：本ワークショップに関する問合せ先は、宇宙航空研究開発機構

担当・谷垣(TEL：(029)868-3693)。

8. 申込み要領

(1)参加申込み

申込期間：5月1日(土)～6月30日(水)必着

学会HPにリンクした年会参加等申込専用HPからの申込みを原則とします(事務局の作業負担を軽減するために、できるだけこの方法を御利用下さい)。ただし、レター本号に同封の「参加・発表申込み票」を郵送する方法も認めます。郵送先は、年会実行委員会事務局です。

(2)一般研究発表の申込み(既に終了しました)

申込期間：5月1日(土)～6月10日(木)必着

学会HPにリンクした年会参加申込専用HPからの申込みを原則とします(事務局の作業負担を軽減するために、できるだけこの方法を御利用下さい)。ただし、レター本号に同封の「参加・発表申込み票」を郵送する方法も認めます。郵送先は、年会実行委員会事務局です。

なお、第1発表者(学会員に限る)として、一般研究発表と自主企画課題研究発表を行える上限は、それぞれ1件とします。学会企画課題研究については、上限規制の対象外です。

(3)年会論文集の原稿提出(既に終了しました)

提出期間：平成16年5月1日(土)～6月10日(木)

年会論文集投稿規定・同論文集執筆要領(学会HPに掲載予定)に則って原稿を作成し、上記の期間必着で、郵送して下さい(E-mailによる送信は認めません)。郵送先は、年会実行委員会事務局です。なお、提出用封筒には、必ず「年会論文集原稿在中」と明記してください。

(4)参加費・懇親会費

参加費等は、郵便振替用紙で1人につき1枚、送金内訳を明記して合計金額を送金して下さい。
各種申込費用及び送金先の郵便振替口座は、次の通りです。

年会参加費：一般会員7,000円、学生会員5,000円（年会論文集代を含む）

ただし、6月末日までに納入の場合は、それぞれ500円引きの6,500円、4,500円とします。

年会論文集の追加購入費：年会論文集を追加購入する場合は、1冊3,500円

懇親会費：一般・学生会員、非会員ともに5,000円

若手の会：会員1,000円、非会員1,500円

郵便振替口座：00120-7-333768

加入者名：日本科学教育学会第28回年会

(5)出張承認申請書発行申込み

ご希望の方は、80円切手を貼り宛名を記入した返信用封筒を同封した上で、年会実行委員会事務局に申し込んでください。その際、所属機関・部署、所属機関の所在地、所属長の氏名、出張期間をお知らせ下さい。なお、申込期間は、5月1日から6月10日（必着）とします。

9. 宿泊施設

宿泊の斡旋はしませんが、次に近隣のホテルとその電話番号を紹介しておきます。

< JR総武線千葉駅、京成電鉄京成千葉駅・千葉中央駅周辺 >

京成ホテルミラマーレ (043)222-2111

スーパーホテル千葉駅前 (043)255-9000

千葉パールホテル (043)247-8080

千葉ワシントンホテル (043)222-4511

東横イン千葉駅前 (043)227-1045

バーディーホテル千葉 (043)248-5551

ホテルサンガーデン千葉 (043)224-1131

< JR京葉線稲毛海岸駅・海浜幕張駅周辺 >

サアラ稲毛海岸ホテル (043)277-9330

東横イン千葉幕張 (043)242-1045

ホテルグリーンタワー (043)296-1122

幕張プリンスホテル (043)296-1111

「若手」のみなさん、ご参加ください！

今回の年会では、20代・30代の大学院生や小学校・中学校・高等学校・大学の教職員といった、いわゆる「若手」のための会合を開催します。この会合は、「若手ならではの自由な雰囲気の中で、若手同士がお互いの研究内容や研究関心について知り合う」ことを目的としています。

また、今後の研究・実践に役立つ情報を得られるような企画もあります。学会誌編集委員2名（中堅委員と若手委員）をお招きし、学会誌論文の投稿・審査に関するプチ・レクチャーを行います。題して、「通る論文、通らない論文（仮題）」です。多数のご参加をお願い申し上げます。

日時：8月6日（金）18:00 - 20:00

場所：千葉大学けやき会館1F 食堂コルザ

参加対象：20代、30代の年会参加者

学会非会員の方も参加できます

40代以上の自称「若手」の方も歓迎します

参加費：学会員1,000円 / 非会員1,500円

年会参加費と一緒に振り込み頂くか、当日会場でお支払い下さい。

申込方法：年会HPから事前にお申し込み下さい。

ただし、事前申込がなくても、当日会場にお越し頂ければ参加できます。

* 若手の会（仮称）企画担当委員：

銀島 文（金沢大学）ginshima@ed.kanazawa-u.ac.jp

久保田英慈（愛知産業大学三河中学校）kubota@asu.ac.jp

森田裕介（長崎大学）ymorita@net.nagasaki-u.ac.jp

山口悦司（宮崎大学）etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp

10. その他

(1) 会場への交通

〔JR〕総武線西千葉駅から徒歩10分。

西千葉駅は、秋葉原駅から各駅停車で約50分。東京駅からは総武・横須賀線快速で一駅手前の稲毛駅まで約40分乗り、各駅停車に乗り換える。

〔京成電鉄〕京成千葉線みどり台駅から徒歩10分。

(2) 第28回年会実行委員会（参加申込・発表申込・発表原稿の送り先です）

委員長：貫井正納（千葉大学教育学部） 副委員長：島田和昭（千葉大学教育学部）
事務局長：鶴岡義彦（千葉大学教育学部） 事務局次長：藤田剛志（千葉大学教育学部）
実行委員：伏見陽児（千葉大学教育学部） 松尾七重・山下修一（以上、千葉大学教育学部）
山崎忠義（千葉県立匝瑳高等学校） 土井 仁（佐倉市立臼井南中学校）
連絡先：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学教育学部
日本科学教育学会 第28回年会 実行委員会事務局

事務局 TEL：(043)290-2606 E-mail：tsuruoka@faculty.chiba-u.jp（鶴岡義彦）

TEL：(043)290-2607 E-mail：fujitakc@faculty.chiba-u.jp（藤田剛志）

TEL：(043)290-2692 E-mail：syama@faculty.chiba-u.jp（山下修一）

(3) 年会企画委員会

委員長：村瀬康一郎（岐阜大学） 副委員長 片平克弘（埼玉大学） 稲垣成哲（神戸大学）
担当及び問い合わせ先：余田義彦（同志社女子大学）yoden@myad.jp
稲垣成哲（神戸大学）inagakis@kobe-u.ac.jp

理事会だより

日本科学教育学会第204回理事会報告

（議事録承認前。要点のみ参考掲載）

日時 2004年5月15日（土）14:00～17:00

会場 国立教育政策研究所 南館会議室

出席者 会長：木村

理事：稲垣、中山、鳩貝、飯高、伊藤、小川、坂谷内、藤田、松香、吉川、余田

監事：三宅、大高

事務局長：吉岡

1. 議事要録（案）の承認

第203回理事会議事要録（案）を承認した。

2. 報告事項

1) 庶務

選挙公報、投票用紙を発送した（4月26日）。

2) 経理・会員

平成16年度科研費（研究成果公開促進費：学術定期刊行物120万円）の交付が内定した（4月15日）。

3) 機関誌編集

第28巻第2号（和文号）の印刷 8編（研究論文4編、実践論文4編）

第28巻第3号（英文号）の準備 2編（研究論文2編）

第28巻第4号（和文号）の準備 6編（研究論文3編、実践論文1編、総説・展望1編、資料1編）

「科学教育研究」の審査状況

審査中論文29編（和文27編、英文2編） 新規投稿論文2編（和文1編、英文1編）

投稿論文数合計、前年度との比較

2002年2月から2003年1月まで 和文 48編 英文 4編 合計52編

2003年2月から2004年1月まで 和文 45編 英文 6編 合計51編

英文号への投稿を積極的にお願したい。

IT化に対応した「査読内規」、「投稿規定」、「執筆要項」の改訂を行っている。

4) 国際

韓国科学教育学会(KARSE)会長に年会への招待状を送り、総会の後に国際学術交流特別スピーチの時間(30分)を設けることとした。

5) 支部

東海支部総会(5月15日)開催。

各支部で新支部長を早急に決定するように依頼した。

6) 広報

科学教育研究レター第162号を4月15日に発行した。

科学教育研究レター第163号を6月15日に発行予定。

7) 年会・学会賞

学会賞候補の推薦について

学会賞選考委員会を5月15日(土)に開催した。応募件数が少ないため6月7日までに理事、顧問、評議員、編集委員に推薦を依頼し、それらを集約して検討し、次回の学会賞選考委員会で候補者を選定する。

8) 学術交流

科学教育研連第2回シンポジウムが5月18日(火)13:30-16:30日本学術会議大会議室で開催。

日本学術会議特別委員会「若者の理科離れ問題特別委員会」のシンポジウムが5月28日で開催。

学術会議の改組が決まり来年10月1日に新たな日本学術会議は発足する。

9) 学会IT化

年会申込受付機能についてのシステム構築業務を委託した。

3. 協議事項

1) 入退会希望者等について

入会希望者10名、退会希望者11名を承認した。

〔入会希望者〕

非公開

〔退会希望者〕

非公開

*現在会員数 1,184名

(正会員1,146名、学生会員30名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員4名)

2) 年会・学会賞について

国際貢献賞の新設について

- ・国際貢献賞関連規定案が提案され検討した。規定案の内容について了承したが、次回の理事会に文言の修正等を行い、表彰規定の改定案とともに再提案することとした。

第28回年会準備状況

- ・第5次案について説明があり協議し、日程、及び内容(学会企画課題研究、自主企画課題研究のオーガナイザー、テーマ等)を了承した。韓国科学教育学会(KARSE)会長の国際学術交流特別スピーチは総会後に行うこととした。

3) 名誉会員の推薦について

名誉会員の推薦条件を検討し、今回は本学会創設時において学会の発展に大きく貢献した会員から名誉会員推薦者リストを作成し、次回の理事会で名誉会員推薦者を決めることとした。その後本人の了解を得て推薦者を総会に提案する。それに関連し、顧問についても次回に検討することとした。

4) 「編集委員会規定」の改定について

査読内規を整理する上で編集委員会規定の改定が必要となり、改定案が提案され、協議した。その結果、案の内容の一部(権限や所掌事項の内容)について修正を加えて、次回の理事会に再提案することとした。

5) 学会誌の電子ジャーナル化について

科学技術振興機構(JST)が行う電子ジャーナルサイトJ-STAGEに「科学教育研究」を電子化して公開するかどうかについて検討した。現在200以上の学会が利用し、年会予稿集を掲載している学会もあるなどの状況を踏まえて編集委員会での対応を検討することとした。

6) その他

旧学会誌の表紙デザインについて鴨志田デザイン事務所と話し合い、デザイン料として5万円を支払うことで決着がついたことを了承した。

会長から、3つのプロジェクト研究を今年度で中止する、顧問会について再検討したらどうか、社会への広報を重視する必要がある社会に発信する外部広報委員会を作ったらどうか、支部活動を見直すとともに研究会と関わりについても再検討する必要がある、学会事務局の移転についての検討を始める必要がある、次回の年会開催校を早急に決める必要があるなどの提案が行われた。

第205回理事会予定：6月19日(土)14時から17時 国立教育政策研究所

第206回理事会予定：8月6日(金)17時30分から18時 千葉大学

編集委員会だより

平成16年5月15日(土)(12:00~14:00)国立教育政策研究所において、第6回編集委員会が開催されました。議題は、新規投稿論文の査読者決定、査読内規の改定について、英文abstractについてでした。

議題では、2編の新規投稿論文の査読者を資料に基づいて決定いたしました。議題は、これまで何度も取り挙げられてきた議題です。重要な課題でありながら、いつも十分な審議時間をとることができず継続課題となっていました。今回は前回の編集会議において示された改訂の指針に基づき、かなり具体的な検討を行うことができました。特に問題となったのは、査読を迅速かつ適切に行うためのルール作りでした。何とか原案に近いものにまではまとまったのですが、最終案を示すには至りませんでした。そのため、6月にこの課題を再度検討することにしました。議題では、ある会員からのご意見に基づき、英文abstractの質を高めるための方策について検討しました。編集委員会では、掲載論文についてネイティブによる英文校閲を行ってきました。その英文校閲を十分に活用する方策が論じられました。

最近1年間の学会誌の編集状況は、下の表の通りです。英文号の掲載論文が2編しか決まっておりません。審査中の英文論文もわずか3編です。昨年度と同様に、英文号(28-3)と和文号(28-4)の発刊時期の入れ替えも考えております。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

次回の編集委員会は、平成16年6月19日(土)に、国立教育政策研究所で開催する予定です。編集委員会に対するご意見等がございましたら、お知らせ下さい。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況
(平成16年5月31日現在)

年 月	新規投稿論文数		掲載決定論文数(掲載号)		掲載拒否 (辞退) 論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2003年 5月	6	1	1 (27-3)	2 (27-4)	
6月	2	1	2 (27-3)		(1)
7月			1 (27-5)		(1)
8月	1	1	2 (27-5)	1 (27-4)	
9月	2		2 (27-5)		3 (1)
10月	5	2	1 (27-5)	2 (27-4)	1 (1)
	3			1 (27-4)	(2)
11月				1 (28-3)	1
12月	3		1 (28-1)		
	8		1 (28-1)		
			3 (28-2)		1
2004年 1月	6		6 (28-1)	1 (28-3)	2 (2)
			2 (28-2)		(1)
2月	3		1 (28-2)		
3月	5	1	2 (28-2)		1
			1 (28-4)		
4月	1		5 (28-4)		
5月	1	1	2 (28-4)		2
			1 (29-1)		

支部会だより

日本科学教育学会東海支部総会報告

平成16年5月15日(土)に日本科学教育学会東海支部総会が、愛知教育大学にて開催された。同じ日に同会場では、第5回研究会が開催され、大変光栄なことに東海支部総会には本学会の副会長である戸北凱惟先生に参加していただいた。報告・議題として 熊野支部長から理事会・事務局からの連絡 東海支部の規約の確認、メンバーの確認 各県会長からの報告 次年度の役員の選出 次回の東海支部の活動内容について その他として会員数の拡大の戦略について・各大学等から(法人化後)情報交換などが行われた。

支部長からは選挙の締め切りが5月28日であるので、各県の会員に必ず投票するように呼びかけがなされた。また、日本科学教育学会のIT化が実現され、査読も含めて行われることになったので、出

来るだけHPを訪問し、使用に慣れてもらいたいという依頼がなされた。また、理事会等の状況もリーダーとHPに公開されているので出来るだけ読んでいただくよう依頼がなされた。次に、東海支部の規約の確認がなされ、各県の会長から各県の報告がなされ、会員数の拡大に関連した発言があった。規約に基づいて、次年度の役員を選出がなされ、岐阜県は村瀬先生、愛知県は飯島先生、静岡県は久田先生、三重県は下村先生ということになった。支部長については熊野がもう一年続投するということになった。また、幹事を置いたらよいのではないかと案が遠西先生からあり、この件については支部長に一任することになった。各県に幹事として、岐阜県は益子先生、三重県が須首野先生、愛知県が平賀先生、静岡県が村山先生となった。最後に次回の東海支部総会は静岡県が担当することになった。戸北副会長より、次年度の研究会を1つ静岡大学で担当できるよう支援したい旨等東海支部への激励の言葉をいただいた。今回会場校として様々な準備や会場運営をいただいた愛知教育大学の吉田先生、川上先生、遠西先生、飯島先生、平賀先生、蒔苗先生と学生の皆様に心から感謝申し上げます。
(文責 熊野善介)

研究会だより

日本科学教育学会平成15年度 第5回研究会 開催報告

平成15年度第5回研究会(第6部会:インタレスト部会)は、平成16年5月15日(土)、愛知教育大学を会場にして開催された。「科学教育における臨床的研究の方法」をテーマに、午前の部でシンポジウムを、午後の部で研究発表を行った。また、本研究会は、東海支部会との共催で開催され、昼休みには東海支部の総会がもたれた。当日は、戸北凱惟氏(研究会運営委員長)、熊野善介氏(東海支部会長)、岸本忠之氏(第6部会長)をはじめ、多くの方にお集まりいただき、46名の参加があった。

午前のシンポジウムでは、「臨床的研究とは何か」というテーマで、活発な議論が行われた。吉田淳氏(愛知教育大学)が司会を担当し、基調講演、シンポジストの提案、参加者からの意見、全体での討論で進行された。西川純氏(上越教育大学)より上越教育大学に臨床教育コースが作られた経緯などを踏まえた基調講演の後、教科等の立場からシンポジストによる提案があった。理科教育として平賀伸夫氏(愛知教育大学)、数学教育として柴田録治氏(岐阜聖徳学園大学)、教育工学として益子典文氏(岐阜大学)より、それぞれの教育、研究における教育現場との関わりから提案がなされた。

午後の研究発表には、6件の研究が寄せられた。井出誠一氏(長野県岡谷小学校)の「算数科/「ずれ」を生かした授業の創造」では、授業における子どもと教師、子ども同士、子どもと教材の間に「ずれ」が観察されることと、この「ずれ」を活用した学習指導への提案がなされた。岸本忠之氏(富山大学)の「数学の授業における数学的価値の形成」では、中学校1年生のケース・スタディを基に、教師が数学的な価値を示唆する場合には、いくつかの方法があることが示された。熊野善介氏(静岡大学)の「静岡エネルギー環境教育プロジェクトの成果と課題」では、静岡大学が取り組んでいるエネルギー教育に関するプロジェクトの概要、成果、課題について紹介がされた。遠西昭寿氏(愛知教育大学)の「臨床教育研究ツールとしての運勢ライン法:概念変換を事例として」では、個々の生徒の心的変容をリアルタイムでとらえる「運勢ライン法」を理科授業に適用した観察実験より、子どもの概念変容の過程が示された。加納寛子氏(愛知産業大学短期大学)の「高等教育におけるユビキタス型リメディアル教材の開発 - 高校生の学習環境の分析から - 」では、高等学校で様々なカリキュラムを履修してきた学生が、大学において自己の学習状況を踏まえた講義の準備を可能とするようなユビキタス型のリメディアル教材の開発が提案された。山口悦司氏(宮崎大学教育文化学部)の「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア:学校でどのように利用されているか?」では、自身が開発した再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア「あんどろ君」の説明や教育実践における利用の例について紹介がされた。

最後に、本研究会開催にあたりご協力いただいた方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

(文責:蒔苗直道)

平成 16 年度 (平成 16 年 7 月 ~ 平成 17 年 6 月) 日本科学教育学会研究会 開催計画

第 1 回 第 1 部会「科学教育戦略研究部会」

期日 平成 16 年 10 月 30 日 (土)

会場 神戸大学

第 2 回以降の予定

インタレスト部会 「実践で結ぶ科学教育システム」

期日 平成 16 年 11 月 27 日 (土)

会場 長崎大学教育学部

第 2 部会「科学教育実践創造研究部会」

期日 平成 17 年 1 月もしくは 3 月

会場 岡山理科大学

第 3 部会「科学教育 I C T 研究部会」

期日 年度後半 (調整中)

会場 福山大学人間文化学部

第 4 部会「科学教育人材養成研究部会」

期日 平成 17 年 5 月

会場 上越教育大学

インタレスト部会 「臨床的研究方法」

東海地区で開催予定で検討中

詳細につきましては決定次第、「科学教育研究レター」誌、研究会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>) 等で告知いたします。

平成 16 年度日本科学教育学会研究会『研究報告』誌購読費納入のお願い

研究会「研究報告」購読料の請求 (振込取扱表同封) を行ったところです。下記の口座へお振込み頂きますようお願いいたします。購読料 (年会費) 4,000 円です。平成 16 年度の会計年度は、平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日となります。なお、ご自分の振込み状況を知りたい方は tokita@juen.ac.jp へメールでお問合せください。

日本科学教育学会 研究会事務局

研究会事務局 (全体・諸連絡)

〒 943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 上越教育大学 戸北凱惟

TEL&FAX : (025)521-3440 e-mail : tokita@juen.ac.jp

研究会事務局 (編集・印刷)

〒 930-8555 富山県富山市五福 3190 富山大学教育学部 岸本忠之

TEL : (076)445-6287 e-mail : kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp

発表申込先 : 開催校担当者または研究会事務局 (全体・諸連絡)

原稿送付先 : 富山大学教育学部 岸本忠之 宛

『研究報告』誌購読費振込先 : 郵便局払込取扱票にて

加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183

研究会ホームページ : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

国際交流委員会だより

以下のような国際会議が開催されますので、奮ってご参加ください。また、国際交流委員会では、各種の国際大会でご発表予定の本学会員の方に、本学会の代表として参加していただき、先端の科学教育の事情を報告していただきたいと願っており、募集をしております。限られた金額ではありますが、旅費の支援ができます。会員の皆様からのご連絡をお待ちしております。

連絡先：国際交流担当理事(熊野：edykuma@ed.shizuoka.ac.jp ,中山：e04502u@cc.miyazaki-u.ac.jp)

June 21-26, 2004

World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia, and Telecommunications

Location: Lugano, Switzerland

<http://www.aace.org/conf/edmedia/call.htm>

July 1-3, 2004

ICICTE International Conference

Location: Samos Island, Greece

<http://www.ineag.gr/ICICTE/>

July 11-15, 2004

IMPACT 2004, The 6th Annual WebCT User Conference

Location: Orland, Florida

<http://www.webct.com/2004>

July 19-23

GIREP 2004 International Conference on "Teaching and Learning Physics in New Contexts"

Location: Ostrava, Czech Republic

Conference secretary: Jana. JanoHcova

E-mail: jana.janoscova@osu.cz

<http://www.girep2004.cz>

July 25-30

11th IOSTE Symposium

Location: Lublin, Poland

Contact: Dr. Ryszard M. Janiuk

Email: rmjaniuk@hermes.umcs.lublin.pl

<http://www.ipn.uni-kiel.de/projekte/ioste/sympos.htm>

August 3-8

18th IUPAC International Conference on Chemical Education

Location: Istanbul, Turkey

Contact: Hale Bayram, General Secretary of 18 ICCE

<http://www.18icce.org>

August 4-6, 2004

Distance Learning 2004

Location: Madison, Wisconsin

<http://www.uwex.edu/disted/conference/>

August 16-18

The 7th IASTED (International Association of Science and Technology for Development) on Computers and Advanced Technology in Education

Location: Kauai, Hawaii, USA

<http://www.iasted.org/conferences/2004/hawaii/cate.htm>

August 24-28

7th ECRICE (European Conference on Research in Chemical Educaiton) and 3rd ECCE (European Conference in Chemical Education)

Location: Ljubliana, Slovenia

Contact: Dr. Dusar Krnel

<http://javor.pef.uni-lj.si/~ecrice/>

November 22-24

The IASTED International Conference on Environmental Modelling and Simulation (EMS 2004)

Location: Ljubliana, Slovenia

Contact: St. Thomas, LTS Virgin Islands

<http://www.iasted.org/conferences/2004/vi/ems.htm>

November 28-December 1

The IASTED International Conference on Power and Energy Systems

Location: Clearwater Beach, Florida, USA

<http://www.iasted.org/conferences/2004/florida/pes.htm>

2004 NSTA Area Conventions

Midwestern - Indianapolis, IN: November 4-6

Northwestern - Seattle, WA: November 18-20

Eastern - Richmond, VA: December 2-4

NSTA future National Convention

Dallas, TX: March 31-April 3, 2005

Anaheim, CA: April 6-9, 2006

New Orleans, LA: April 12-15, 2007

Boston, MA: March 27-30, 2008

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第163号を、お送りいたします。

下記メンバーで編集を担当する最後のレターとなりました。念願であったレターのWeb化も定着してきました。これまでの会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

担当理事： 東原義訓（信州大） 吉川 厚（NTT データ）
委員： 大辻 永（茨城大） 川本佳代（広島市立大）
銀島 文（金沢大） 隅田 学（愛媛大）
高藤清美（筑波女子大） 人見久城（宇都宮大）
森田裕介（長崎大）
幹事： 谷塚光典（信州大）

レター編集・印刷

〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22

国立教育政策研究所内

日本科学教育学会広報委員会

TEL : (070)5541-6615 FAX : (03)3714-0986

e-mail : jsse-pr@certms.shinshu-u.ac.jp